

日本語論文の評価シート

○ — _____ 班 — _____ 回目

<指導担当の先生方へ>

日本語論文を読んで、項目ごとに○をつけて、生徒に返却してください。論文自体の文章の修正は不要です（気になる部分は朱線を引き、返却時に口頭で説明してください）。特に、以下3点については、注意してチェックをお願いします。

【追加のチェック項目】

- 1) 図や表の正しい位置にキャプションが書かれているか。
- 2) 参考文献は正しく引用され、参考文献の欄に正しく論文名等が記載してあるか。
- 3) 研究目的、仮説と結論の整合性が取れているか。

裏面にキャプションの位置と参考文献の引用の仕方等の資料を載せていますので参照してください。
返却時には、返却日の記入と検印をお願いします。

<生徒さんへ>

返却されたら、ルーブリック評価表とともに、論文作成時の配付資料（B4）の「2研究論文・研究要項の作成」を読んで、作成した論文に必要なものは何かよく考えて修正し、再提出してください。再提出する際は、返却された論文と評価表も一緒に提出してください（前回とどこが変わったか分かるようにするため）。

○論文のルーブリック表

項目	A (4)	B (3)	C (2)
論文タイトル 【課題発見力】 <思・判・表>	論文タイトルから、研究内容が具体的に読み取れる。	論文タイトルから、研究内容の一部が読み取れる。	論文タイトルから、研究内容が読み取れない。
要旨 【コミュニケーション能力】 <思・判・表>	序論、研究方法、結果・考察、結論・展望の内容が簡潔に、意味が分かるように記載されている。	序論、研究方法、結果・考察、結論・展望の内容が記載されている。	序論、研究方法、結果・考察、結論・展望の内容の一部が記載されている。
序論① 【コミュニケーション能力】 <思・判・表>	研究背景、研究目的、先行研究、研究意義が全て記載されている（同様の内容でも可）。	研究背景、研究目的、先行研究、研究意義のうち一部が記載されている（同様の内容でも可）。	研究背景、研究目的、先行研究、研究意義がそれぞれ分かるように示されていない。
序論② 【コミュニケーション能力】 <思・判・表>	仮説とその根拠、仮説の検証方法が全て記載されている（同様の内容でも可）。	仮説とその根拠、仮説の検証方法のうち一部が記載されている（同様の内容でも可）。	仮説とその根拠、仮説の検証方法が分かるように示されていない。

研究方法① 【課題解決力】 <思・判・表>	調査・実験の目的、その達成に向けた調査・実験方法とその理由が記載されている。	調査・実験の目的、その達成に向けた調査・実験方法とその理由のうち一部が記載されている。	調査・実験の目的、その達成に向けた調査・実験方法とその理由が分かるように記載されていない。
研究方法③ 【課題解決力】 <思・判・表>	調査・実験の方法やデータの分析方法を、図などを用いて詳細に示している。	調査・実験の方法やデータの分析方法を示している。	調査・実験の方法やデータの分析方法を、分かるように示していない。
結果① 【技能】 <思・判・表>	調査や実験で得られたデータを図や表にして、伝えたい内容が分かるように示している。	調査や実験で得られたデータを図や表にしている。	調査や実験で得られたデータを図や表にしていない。
結果② 【技能】 <思・判・表>	調査や実験から得られたデータから分かることを複数記入している。	調査や実験から得られたデータから分かることを一つ記入している。	調査や実験から得られたデータから分かることを記入していない。
考察① 【課題解決力】 <思・判・表>	得られた結果に対して、なぜそのような結果になったのか新たな「問い」を複数立てて、それぞれ考察している。	得られた結果に対して、なぜそのような結果になったのか新たな「問い」を一つ立てて、考察している。	得られた結果に対して、なぜそのような結果になったのか新たな「問い」を立てて考察していない。
考察④ 【課題解決力】 <思・判・表>	仮説に対する検証が示されている。		仮説に対する検証が示されていない。
結論 【課題解決力】 <思・判・表>	リサーチクエスチョンを示し、得られた結果や考察をもとに、導いた答えを記載している。	リサーチクエスチョンを示し、得られた結果や考察をもとに、導いた答えを記載している。	リサーチクエスチョンを示し、得られた結果や考察をもとに、導いた答えを記載している。
謝辞 【技能】 <知識>	謝辞を記入している。		謝辞を記入していない。
参考文献 【技能】 <知識>	文章中で引用している文献を全て記載し、それ以外の文献は記載していない。	文章中で引用している文献の一部を記載し、それ以外の文献は記載していない。	文章中で引用していない文献を記載している。または、文章中で文献を引用していない。

返却日	検印
月 日	

<コメント>（必要に応じて記入してください）

【論文作成ガイダンスで使ったスライドより】

(成果物作成要領 (配付済) にも同じ内容が書かれています。)

引用する必要がある場合

- 論文を作成する際に、これまでの知見として先行研究で分かっていることを示す。
- 先行研究の実験方法を参考にして、実験を行った。
- etc

※ **ただ読んだだけ、自身の研究で参考にしていない場合は、引用する必要はありません。**

引用したら、参考文献に必ず書く

引用を用いる場合には、以下の書き方にならって表す。

著者が二人まで 平泉 (2006) によると、…ということが知られている (平泉, 2006)

著者が三人以上 水沢ら (2004) によると、…ということが知られている (水沢ら, 2004)

参考文献	
	・引用方法と参考文献は2つで1セットであり、どちらか一方がかけても研究不正 (盗用) になるので、以下のルールに従って提示しなければならない。
	<u>論文の場合</u> 名前 (発行年): 論文タイトル, 雑誌名, ページ. 例) 水沢太郎, 飛龍花子 (2004), 炭酸カルシウムの純度に関する考察, 平成 23 年度岩手県立水沢高等学校理数科課題研究集, 12-15.
	<u>書籍の場合</u> 名前 (発行年): 書籍名, 出版社, 全ページ数. 例) 東山紀幸 (2013): 北上山地の地質と地形, 磐井出版, 250 p.
	<u>インターネットの場合</u> 名前 (掲載年): タイトル, URL (資料にアクセスした日) 例) 平泉誠 (2006): 世界遺産と大理石, http://www.…….co.jp/ (2021.2.1)

図・表の書き方

・図のタイトルは図の下部に、表のタイトルは表の上部に、それぞれつける。

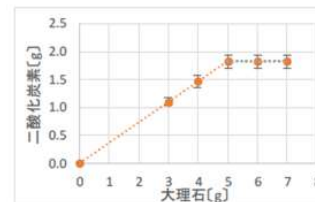


図3. 一定量の塩酸と反応する大理石の質量と二酸化炭素の発生量

表1. 大理石の色と炭酸カルシウムの含有率の比較

大理石		CaCO ₃ の含有率[%]
産地	色	
日本	白	83
イタリア	灰色	76
中国	黒	57